

シャミナード年 2010年7月

## ギヨーム・ヨゼフ・シャミナードとその協力者

シャミナード神父を近くから眺めると、かれを取り巻く人々への影響力の大きさに驚かされる。ミュシダン、ボルドーそしてそれを超えて与えた輝きは明白である。多くの人々はかれと交わるによりキリスト教生活への献身を更新し、強めていった。

なによりも注目すべきことは、彼と交わった人々が多種多様だということだ。労働者、学生、知識人、庶民、若者、成人、老人、男性、女性、信徒、修道者、聖職者…各人がそれぞれのレベルに応じて、自分の善のために役立つメッセージを受け取っているかのようだ。

シャミナード神父の最も近い二人の協力者の証言を聞くことにしよう。

### アデル・ド・トランケレオン（1789－1828）



アデルは8年の間、手紙のやりとりと仲介者を介してしかシャミナード神父と接触をもっていなかった。しかし、初めから、すなわち1808年からアデルは魅了されていた。

1809年3月15日、かの女は親友アガタ・ディシエに書き送っている。「親愛なるアガタ、ボルドーからやって来るすべてのお恵みについて、あなたはなんとおっしゃるでしょう。シャミナード師はなんと聖なる人と見えることでしょう。わたしたちにとってなんと嬉しい受け入れでしょう。かれが（小さな）会についてお持ちになった良いお考えに相応しい者となるよう努めましょう。」

さらに、「ああ親愛なる友よ、なんと聖なる人たちでしょう。これらの人々を持つことはなんと幸運なことでしょう。」

シャミナード神父に対するアデルのいや増す尊敬の念を証言する言葉が数多く残されている。最初の修道女の終生誓願の宣立後間もなく、アデルは彼に書き送っている。「あなたのお手紙はあなたの子どもたちにとっていつも大きな慰めです。そしてあなたの有益なお勧めはかの女たちが呼ばれている目的に向かってますます大胆に歩いていくよう勇気づけます」（アデル書簡 323）。

ヤナシュ修院長に対して次のように注釈している。「ここ（アジャン）では、神父様は実に多くのことをなさいました。わたしたちの評議員会をよく導いて下さいました。わたしたちを適切に叱って下さいました。この良いお父さん、ボンペールは無限の善を行って下さいました。かれがわたしたちを離れるとき、わたしたちは安らかな状態で、会の真の娘となる望みをいただいていた」

（アデル書簡 450）。

創立者の豊かなパーソナリティの中で、アデルはその熱誠によって心打たれたが、さらにかれを生かす信仰によって一層強く心打たれていた。「わたしたちのお父さんが言っていたことを思い出しましょう。『聖なる人たちと一緒にだと多くのことを成しとげることができるが、不完全な修道者とは

ほとんどなにもできない。』 シャミナード師がどのようになさったか見てみましょう。かれは急ぎませんでした。いつも自制していました。しかし、それにもかかわらず多くのことをしていらっしゃいます。なぜならお恵みがかれのために働いて下さるからです」(アデル 書簡 409)。

「かれは私たちに信仰についての美しい教話をなさいました。念祷についての教話も約束なさいました」(アデル書簡 445)。「ボンペールのご滞在は本当に恵みに満ちた時です。もたらして下さる平和、しっかりとした教話、その祈りによって。その小さな犠牲についても忘れずに」(アデル・書簡 446)。「ボンペールに信仰と念祷について話して下さいようお願い下さい。この二つはかれの最も素晴らしい教話です。わたしたちの父の模範に従って、神の最も大きなみ栄えのため全身を献げましょう。かれはわたしたちの評議員会が神と信仰の精神の中に行われることを求めておられます。かれの聖なる勧めから利益を得るよう祈って下さい。かれは真の太祖です」(アデル書簡 448)。「念祷の娘になるよう努めましょう。…よりよく祈りましょう。もっと潜心しましょう。活動の中で神とより深く一致しましょう。ボンペールのように、話す前、答える前に心を天に上げましょう。そうすると性急さを弱め、つい口をすべらせて後悔することのないようしてくれます」(アデル 書簡 565)。

## ジャン・バプティスト・ララン (1795-1879)

「シャミナード師は、賢明さと円熟さが同年代の人々に比べずっと抜きんでており、その生存の始めから他の人々を照らし導くために生まれてきたような人々の一人であった。美しく輝き驚くべき柔軟さを特徴とするその風貌は、人々が好んでキリスを表現する美しい典型的な姿を思い出させた。かれの言葉は大変ゆっくりで、ぎこちないものであったが含蓄に満ちたものであった。その繊細な感受性は声のわずかな変化やまぶたの下を流れる涙によって表われていたが、自らを律する習慣はかれの初の反応を抑制していたため、無感動な人とみなされていた。地味であるが峻厳ではなく、世から全く離れ質素な事務室にほとんど籠もっていたかれは、熱誠の仕事だけを行い、神についてのみ語っていた。将来マリア会を生み出すことになる聖母会(コングレガシオン)の創立者は、このような人であった。シャミナード師は自分の周囲に選ばれた青年を集め、困難な時に聖なる巧みな事業によってかれらを引きつけた。そして霊的指導者としてかれらの多くを指導した。シャミナード師はかれらに頻繁な秘蹟の拝領に導いた。毎年ボルドー近郊にあるサンローランのかれの田舎の家を開放し黙想会を開き、説教した。かれら青年たちは熱心なキリスト教信者となって黙想会を後にし、自らの聖化ばかりでなく、他の人々の教化のためにも熱誠の業に励んだ。この恒常的宣教の影響の下、ボルドーの街は宗教をその最も純粹な型で見、生活と榮譽に戻った」(ララン、マリア会の歴史的ノート 13頁)。



**マリア会員アンドレ・アメデの証言：**「ララン師はシャミナード師について語るとき、眼に涙なしには話すことはありませんでした。わたしはかれが次のように話すのを幾度聞いたことでしょう。『シャミナード神父様は私を大変愛してくださいました。そして、多く許して下さいました。』そし

て、シャミナード師をそう呼んでいたように、尊敬すべき父について喜びと感嘆の心をもって話し続けていました」(L IV-P 345)。

## 優しさと力強さ

シャミナード神父の性格は大変優しく、しかしまた断固としたものであった。師はこの個性の二側面を状況に応じて使い分けることができた。若い人に話すとき、全く気軽に話していた。「アジャンの聖母会員がシャミナード神父様に敬意を表わすためにやって来ました、そして神父様から賢明な助言をいただきました。神父様はわたしたちが、優しさと堅固さを兼ねそなえた手段で事業を継続することを望んでおられます。ほとんど気づかずに目的に到達させ、糖衣錠を飲ませるようにと望んでおられます。これが若い人を得る唯一の方法です。神様のなさることをご覧なさい。どのようにわたしたちを引きつけ、どのようにわたしたちを待っておられるかを。おお！イエスよ、あなたの霊をお与え下さい。わたしたちをあなたのみ心の学校にお導き下さい。そこであなたの聖なる授業に与ることが出来ますように」(アデル書簡 321)。

同じようにシャミナード師は教師たちに、生徒たちを導き、信仰に心を開かせるため、先ず生徒の心を得るようすすめている。

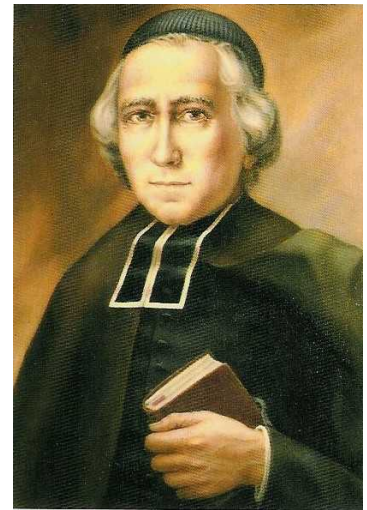
シャミナード神父は弟子たちに対する愛情を表現する方法を識っていた。かれは多くの手紙を「わたしはあなたを優しい愛情をもって抱擁します」という結びのことばで終えている。

さらにかれに聞いてみよう。「実際、イエスのうちにこそ、そしてその聖なるおん母をとおしてこそ、団結は力なのです。ですから、皆様の老父に一致し、老いたる父が皆様を愛するように愛してほしいのです。そして、マリアの栄光と皆様の幸せだけを望む老父の考えを理解するように努めてください。

信仰と皆様の尊い使命の精神とを更に深めてください。これがわたしの心の最も熱烈な願いです。もとより、皆様はわたしがただ皆様のためにだけ生きていることを知っております。わたしが自分の身命をささげているのは皆様のためです。もしわたしが自分の血によって皆様に選ばれた人々の至福を保証できるならば、なんと幸いなことでしょう」(シャミナード書簡 V-1187)。

しかし、シャミナード師は強く要求することも知っている。誤りや乱用を断固として排斥することをためらわない。「親愛なシスター・サクルマンはわたしたちに大きな喜びを与えてくれました。神父様は教話中に、シスターに償いをおさせになりました。シスターはそれを向上心をもって果たしました。神様がシスターに堅忍を与えてくださるようお祈りしましょう」(アデル書簡 446)。

フリドブラット師が共同体を代わることを願ったとき、「あなたは『わたしが間違っているとは思いません』と言っています。あなたは考え違いをしていますよ。わが子よ、聖パウロがサタンは時として光の天使に姿を変えると話したときに、私たちに教えようとしたことをあなたはほとんど理



解していません（Ⅱコリント 11-14）あなたが福音的と称するそのような考えをサタンに吹き込まれて以来、あなたは行いの上でどれだけ実際に進歩しましたか。サタンは、神から御憐れみによってあなたに与えられた場から誘き出した後で、どうするか心得ています」（シャミナード書簡 V-1156）。

**修練長だったレオン・メイヤー師に宛てて：** 「わたしたちはクルトフォンテーヌの修練院が神によってわたしたちに求められた事業だと信じて、間違っていますか。その是非を教えてください。もし、否定的に答えて、神はこの事業をお求めにならなかった、と言うならば、その時は万事休すです。修練者を受け入れるのをやめ、現在いる志願者、修練者を賢明に解散させる方策を取るべきです」（シャミナード書簡 IV-959）。「もうそろそろあなたの靈魂が十分に成長して、狭い考えや意気地のない気持ちで神のみ業を損なわないようになる時が来ています」（シャミナード書簡 IV-966）。

**サンルミの共同体に対して：** 「金に対する関心のためにわたしたちの原理から外れてよいのでしょうか。マリア会は間違った道を歩んで存続するくらいなら、持てる金とともに減ってしまった方がよいのです」（シャミナード書簡 IV-960）。

しかしながら、必要なら、師は柔和さをすすめる。修道生活を離れようと考えている一人の修道者についてシュヴォ師に宛てられた書簡のように。「この迷える魂を神にゆだねるように努めてください。そのために信仰の熱烈さと柔和さを用いてください。当人のために祈らなければなりません」（シャミナード書簡 VIII -1188）。

結局、信仰の精神だけがわたしたちを導くものでなければならぬ。サンルミのシュヴォ師に宛ててシャミナード師は次のように書き送っている。「なぜイエスとマリアに全幅の信頼を寄せないのですか。聖ペトロがローマに使徒座を定めたのはその教育、知識、知恵、自然的手立てによるものだと思いますか。聖ペトロがあのような成功を収めたのは当人を派遣なさった主に対するその信頼によってであるとは思いませんか…。使徒たちと70人の弟子たちは、命じられた偉大な仕事に従事する前に、どこから経験を積んだ、とあなたは思いますか。確かに善意は持っていました。しかし、それがすべてです。…弟子たちは自らの不足を識っていました。しかし、自分たちが受けた使命に関しては主をあくまで信頼していました。ああ、わたしたちはどんなにか墜落していることでしょうか。一体、わたしたちの信仰、イエス・キリストに対する信仰はどうなったのでしょうか。とは言え、わたしはあなたを辱め、あなたの協働者を辱めようとしているのではなく、あなた方が陥っていると思われるまどろみから皆を目覚めさせ、マリア会に入会したことにより、皆が奉じている身分を思い起こさせようとしているのです。あなた方は真の宣教者です。…至る所に信仰と敬神の精神を伝え、キリスト信者を増やすための宣教者です。あなたたちは皆宣教者です。宣教を果たしてください。

- (1) 真の宣教者は自分、自分の才能、自分の腕に決して頼ってはいけません。宣教の恵みの助けと、聖なるおとめの御保護に全幅の信頼を寄せるべきです。そもそも聖なるおとめはこの事業のために働いておられ、そのためにこそ、神の母に高められました。
- (2) すべての宣教者は、イエス・キリストの御血によってあがなわれた人々の救霊の重要性を深く心得ていなければなりません。」（シャミナード書簡 III-725）